

株式会社タムラ製作所

2015年3月期 第2四半期決算概要

2014年11月10日



TAMURA

Your One and Only Company

1. 2015年3月期 第2四半期決算概要
2. 2015年3月期 通期業績予想

1. 2015年3月期 第2四半期決算概要

損益計算書(要約)

- 緩やかな景気回復のもと、ターゲット市場が堅調に推移
- プロダクトミックス改善や、収益改善施策により、営業利益は前年同期比で倍増

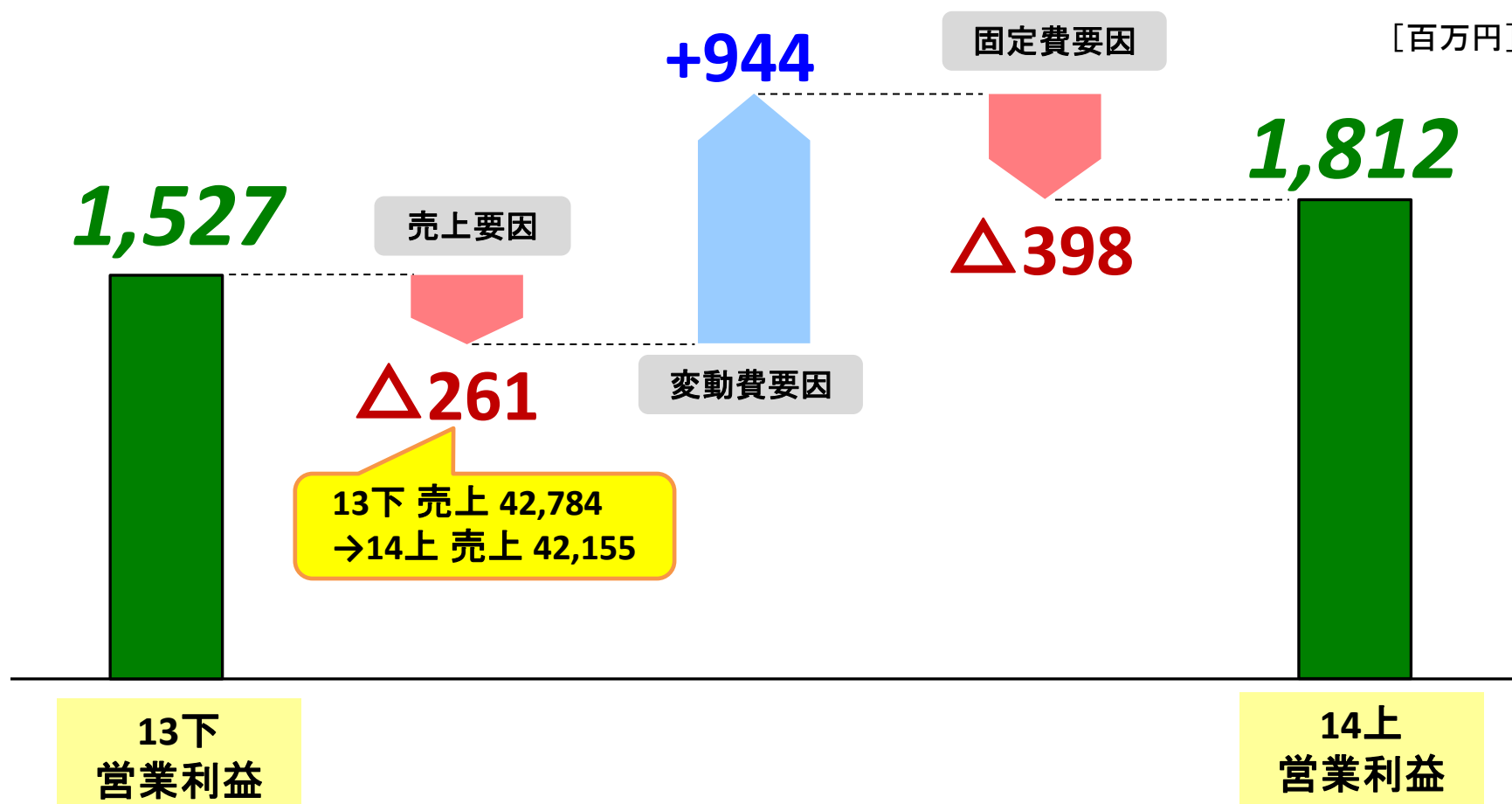
[百万円]

	13上	13下	14上	前年同期 増減額	前年同期 増減率
売上高	38,391	42,784	42,155	3,764	110%
営業利益	881	1,527	1,812	930	206%
営業外損益	327	154	△92	△420	—
経常利益	1,209	1,681	1,719	510	142%
特別損益	△32	△118	△79	△47	—
税引前損益	1,177	1,563	1,640	463	139%
当期純損益	734	1,063	1,246	512	170%

14上 期中平均実績為替レート \$1= 102円 01銭
 14上 期中平均社内為替レート \$1= 101円 83銭
 14上 期末日実績為替レート \$1= 109円 45銭
 14上 期首 計画為替レート \$1= 105円

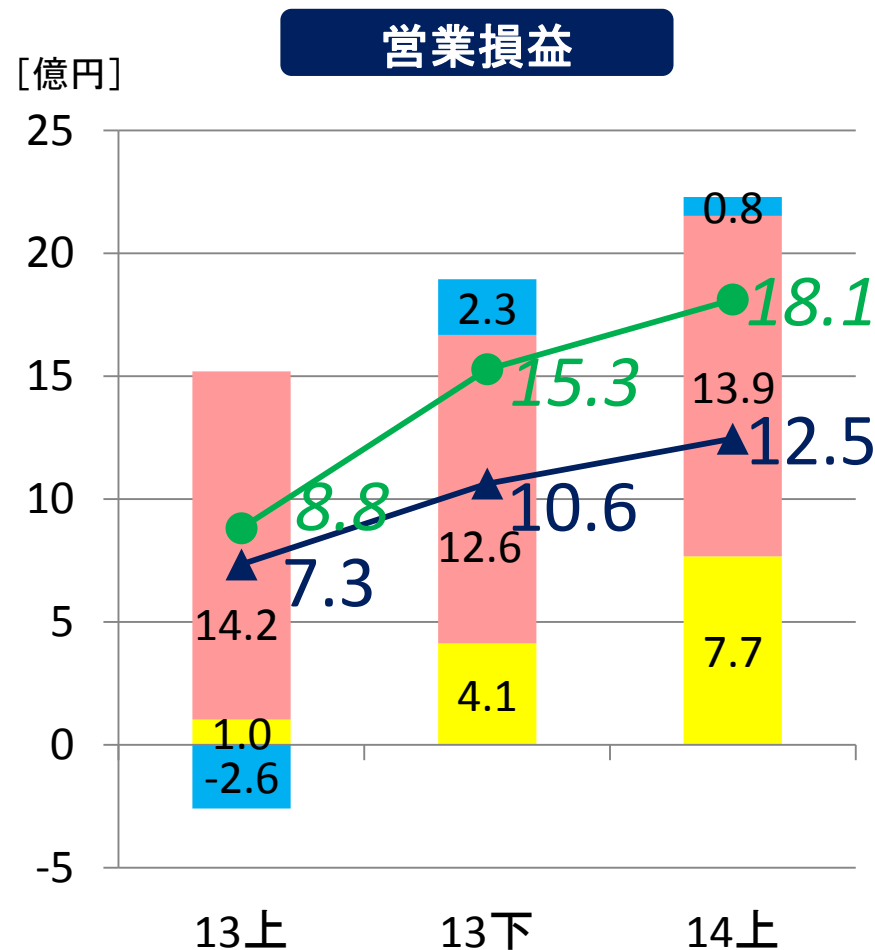
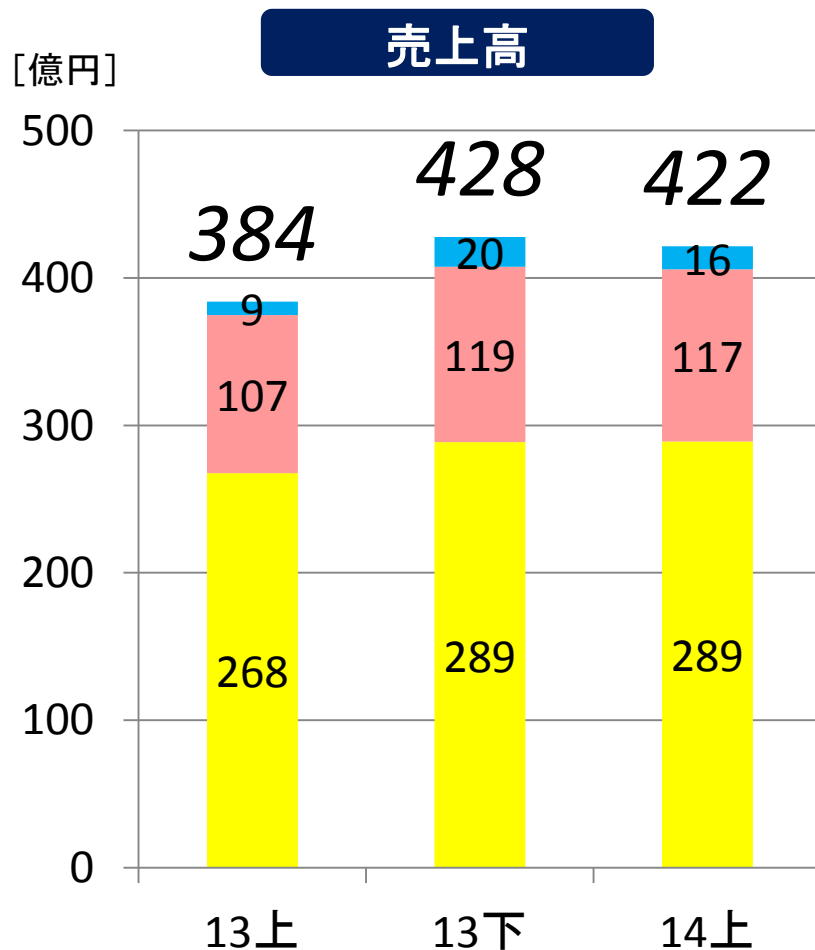
損益の増減分析

- 高付加価値製品の拡大、プロダクトミックス改善により、収益性が向上
- 新工場などの設備投資に伴う減価償却費、賞与などの労務費水準の上昇により、固定費が増加。



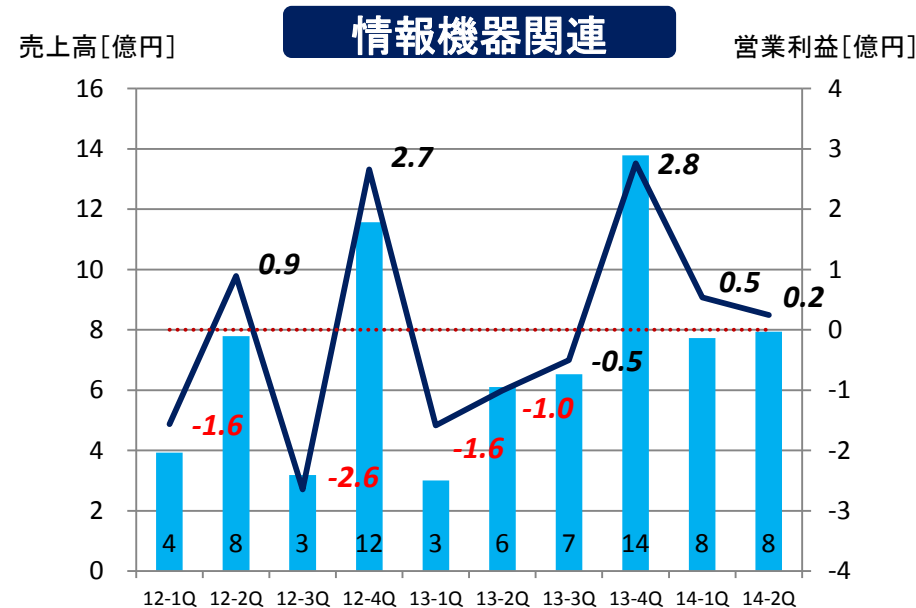
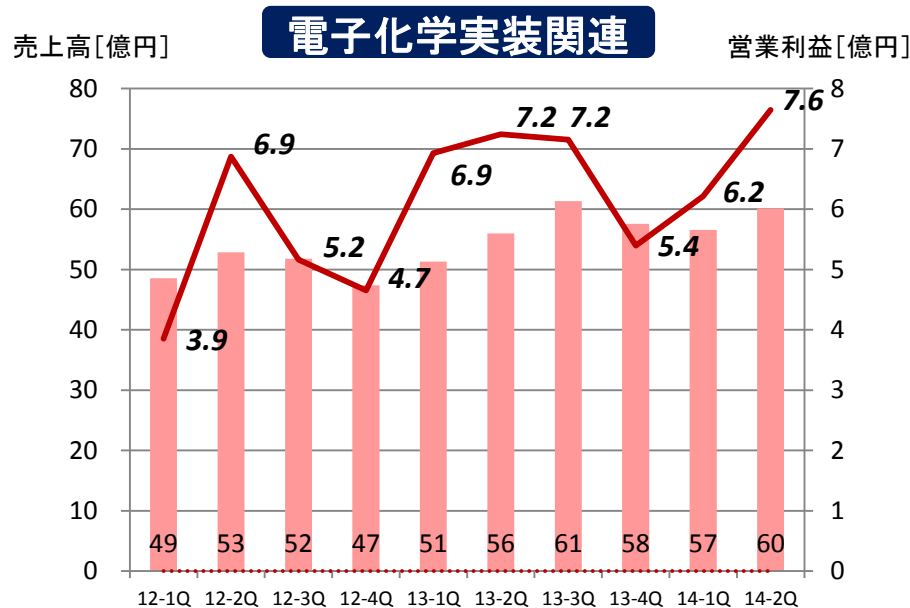
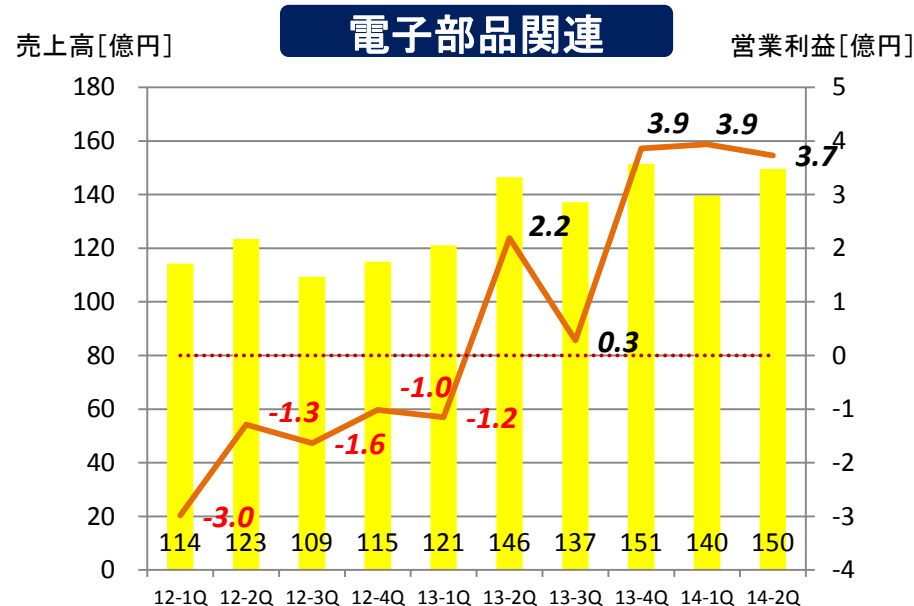
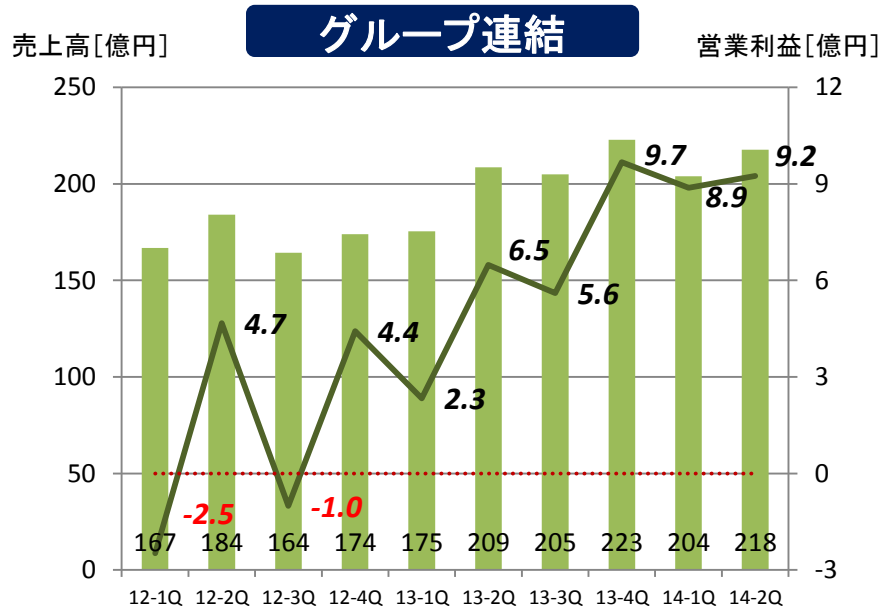
事業部門別の売上高・損益推移

- 電子部品： プロダクトミックス改善と構造改革効果で、大幅に収益拡大
- 電子化学実装： 戦略市場向け製品が堅調に推移
- 情報機器： 設備投資需要が緩やかに回復。新製品も動き出し、利益確保。



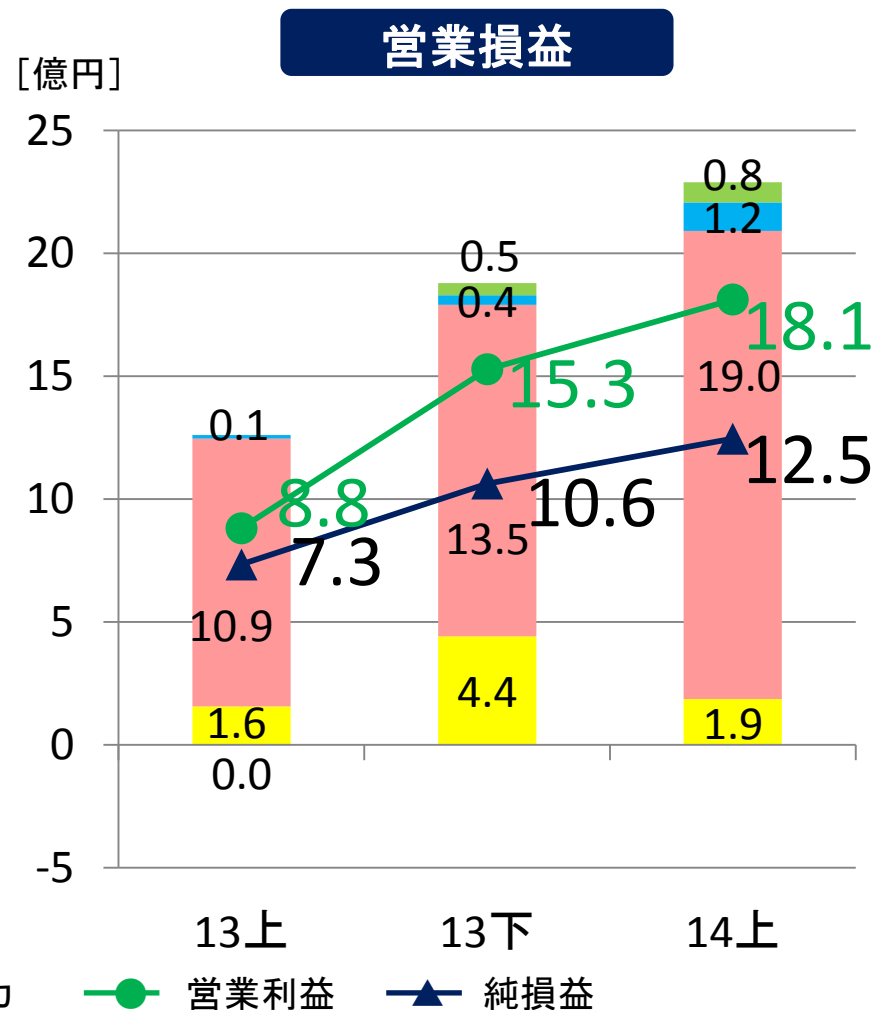
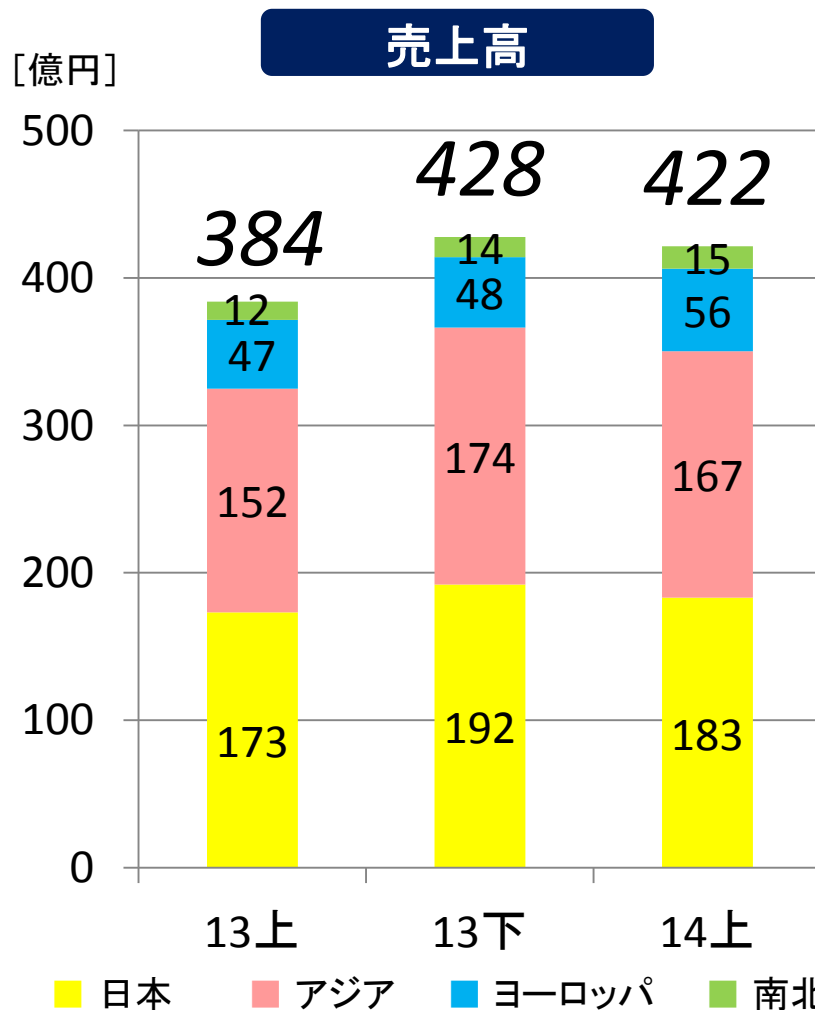
■ 電子部品関連事業 ■ 電子化学実装関連事業 ■ 情報機器関連事業 —●— 営業利益 —▲— 純損益

事業部門別の売上高・損益(四半期推移)

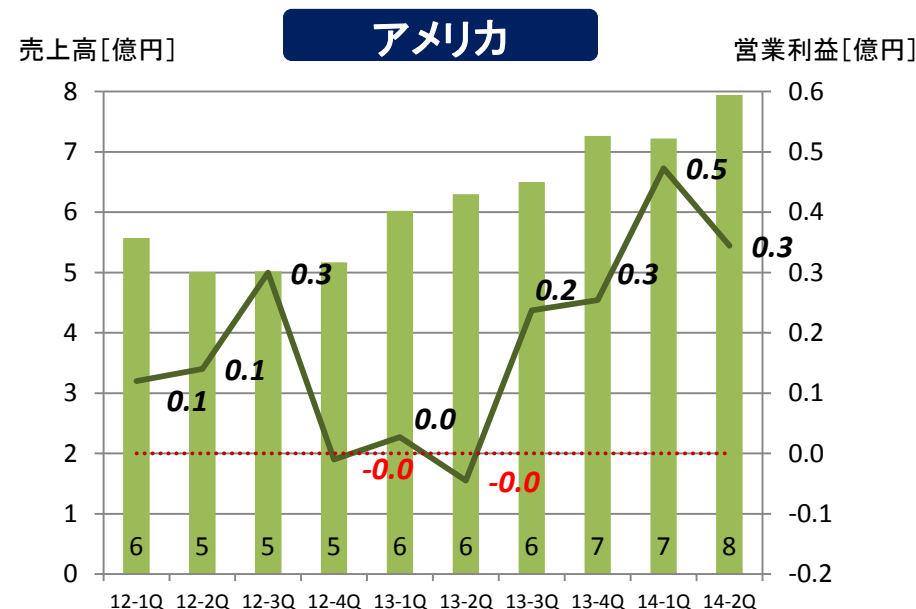
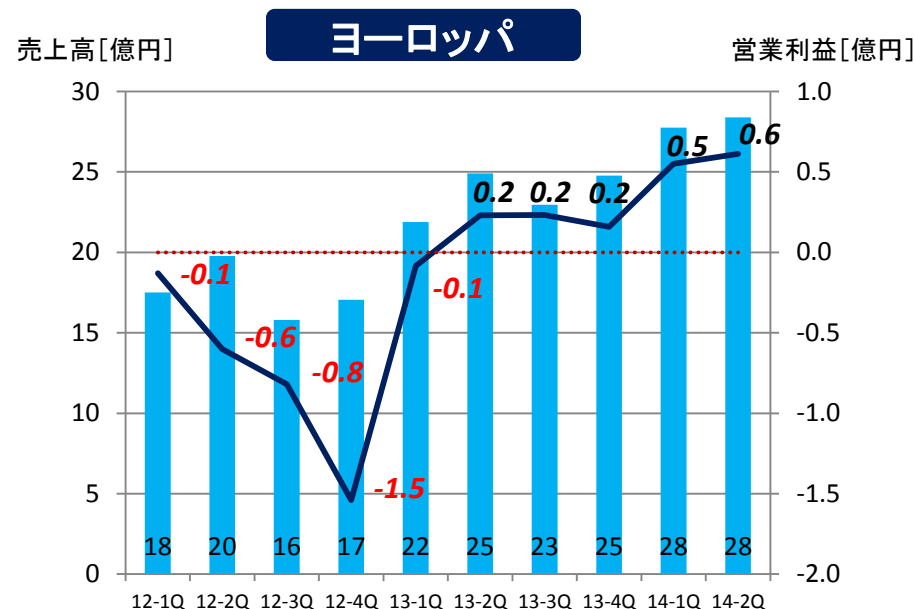
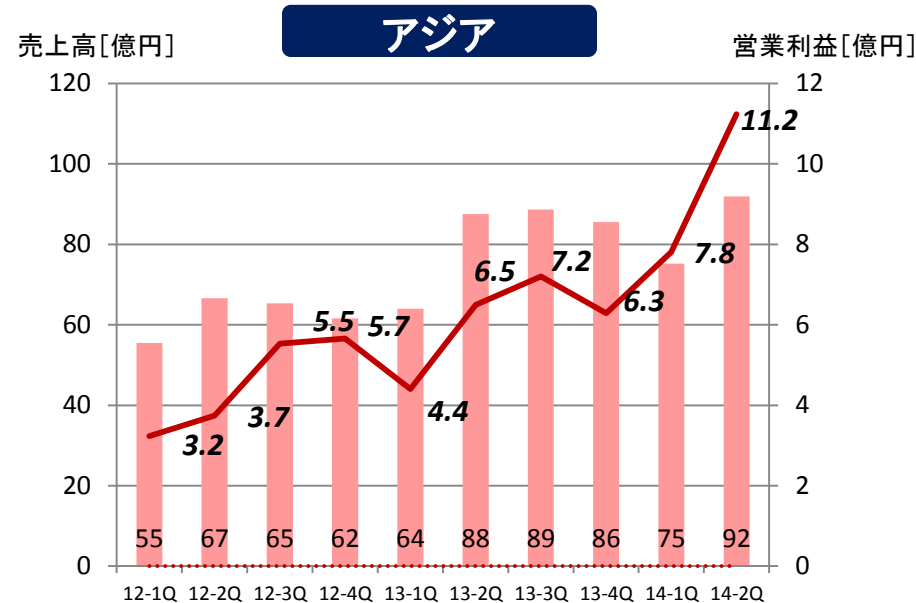
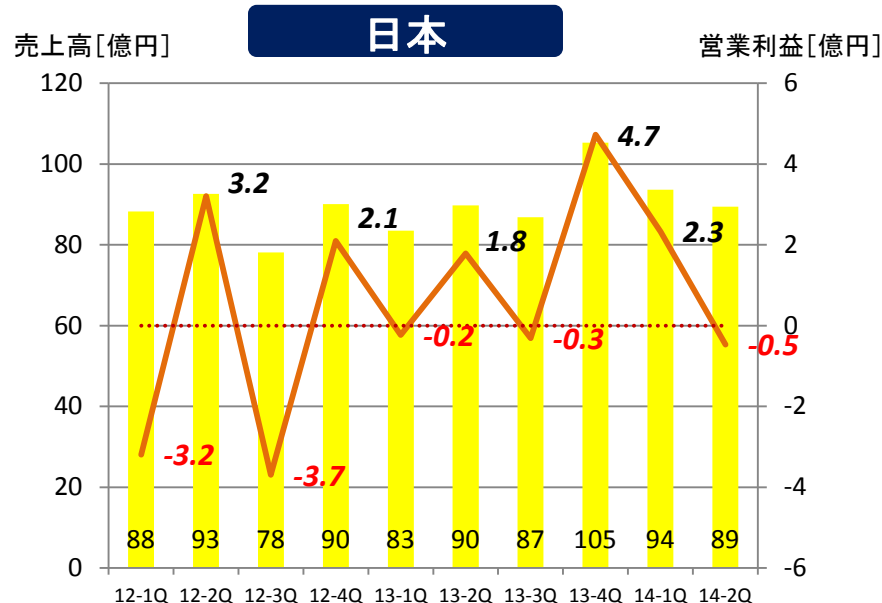


地域別の売上高・損益推移

- 日本： 国内は高付加価値製品の開発・販売に集中し、黒字維持
- アジア： 地産地消の体制を強化し、収益を拡大
- 欧米： エネルギー・インフラ向け大型トランス・リアクタの販売が広がる。



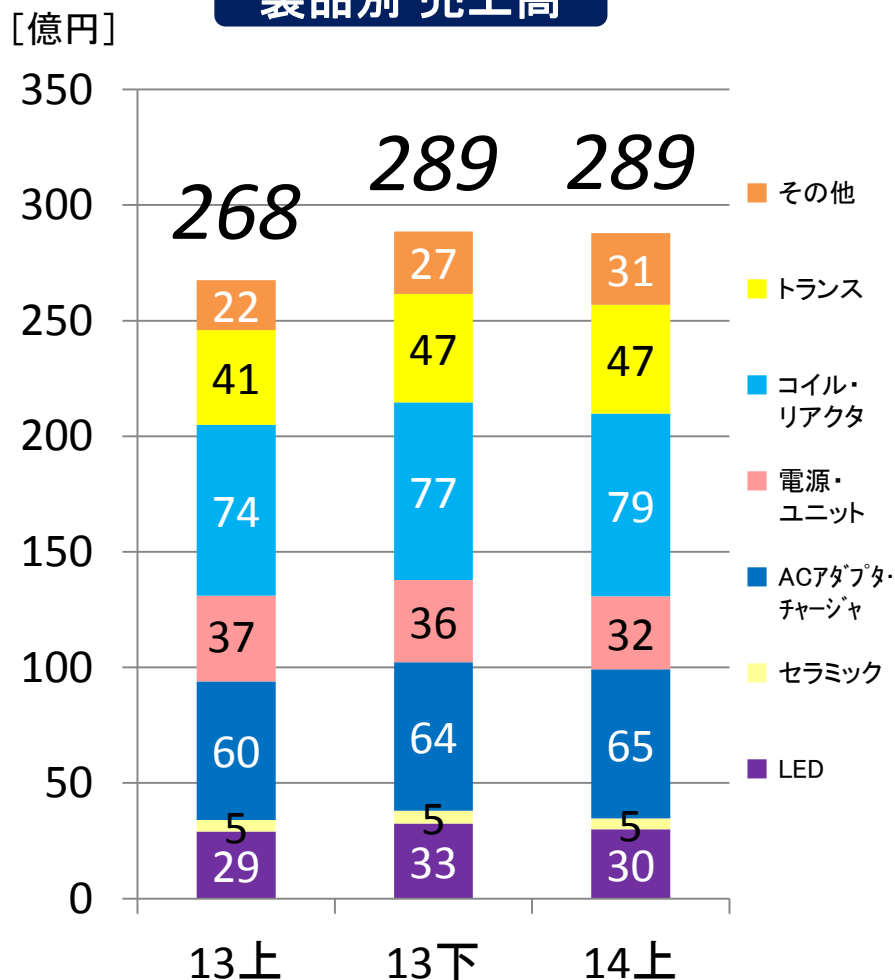
地域別の売上高・損益(四半期推移)



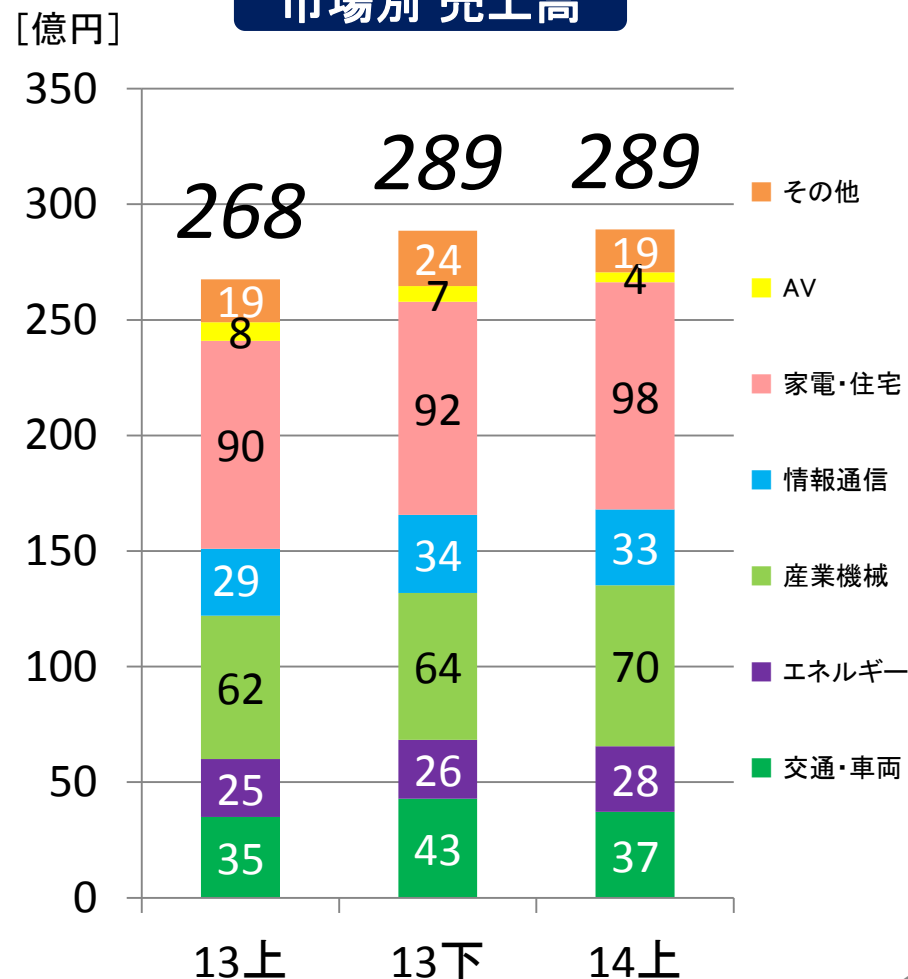
電子部品関連事業の売上高推移

- エアコンや家庭用電動工具などの家電住宅関連が、グローバルに好調
- 設備投資需要の回復に伴い、産業機械関連が伸長
- 製品別では、エアコンなどにおけるエネルギー変換部品としてリアクタが堅調に推移

製品別 売上高

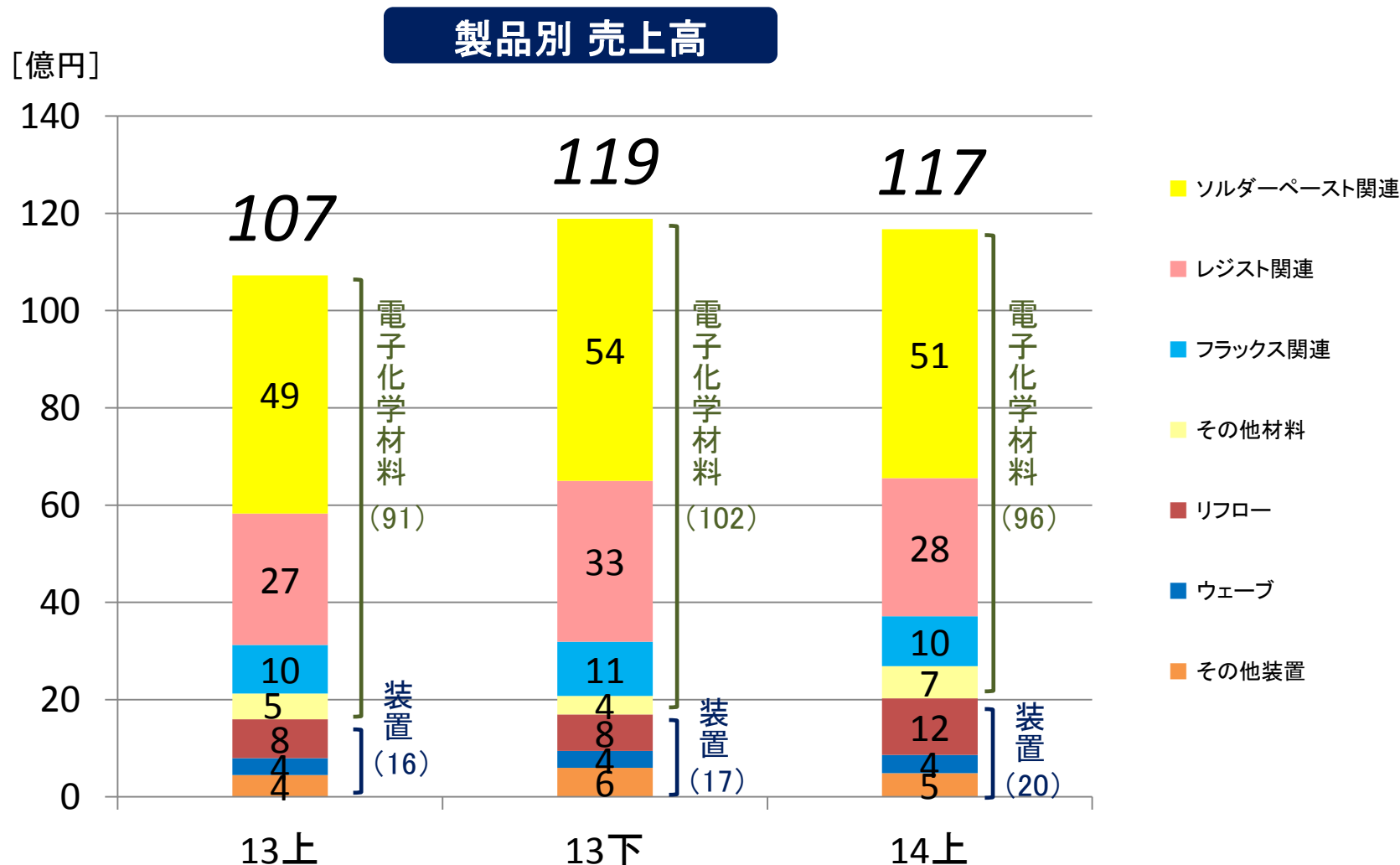


市場別 売上高



電子化学実装関連事業の売上高推移

- 電子化学事業は、車載関連が需要の拡大で堅調に推移。
夏場以降はスマートフォンやタブレットPC関連の生産が立ち上がる
- 実装装置事業は、設備投資需要の回復と共に復調



貸借対照表(要約)

- 総資産はほぼ変わらず（57百万円減）。
- 有利子負債は301百万円減少。純資産は223百万円増加。

[百万円]

	13/9	14/3	14/9	対14/3	
流動資産	46,817	49,986	49,537	△448	
（現預金）	10,819	12,245	11,856	△388	
（売上債権）	20,574	21,644	20,757	△887	※1
（棚卸資産）	12,775	13,324	14,133	809	※2
（その他流動資産）	2,648	2,771	2,789	17	
固定資産	25,067	24,781	25,173	391	
（有形固定資産）	18,973	19,782	19,694	△88	
（無形固定資産）	1,443	1,470	1,362	△108	
（投資、その他）	4,650	3,528	4,116	588	
資産合計	71,884	74,767	74,710	△57	
流動負債	27,833	24,736	23,557	△1,179	※3
（仕入債務）	11,420	12,286	12,505	218	
固定負債	12,964	18,136	19,034	898	※4
〔有利子負債〕	22,791	22,983	22,681	△301	
負債計	40,798	42,872	42,591	△280	
純資産合計	31,086	31,895	32,118	223	※5
負債・純資産合計	71,884	74,767	74,710	△57	

■ 主な増減

※1 売上債権 △887

※2 棚卸資産 +809

※3 流動負債 △1,179
 一年内返済長期借入金返済 △1,103

※4 固定負債 +898
 長期借入金 借換 +1,140
 流動へ振替 △642

※5 純資産 +223
 利益剰余金 +999
 （当期純利益+1,246、配当支払△246）
 その他包括利益 △789

キャッシュフロー(要約)

- 営業CF: 前年同期比+13.7億円(3倍弱)
- 投資CF: 前年同期の大型投資(児玉新工場)支出なくなり例年並み平常化
- 財務CF: 借入(有利子負債)返済5.0億円、配当支払2.5億円

	13上	13下	14上	[百万円] 前年同期 増減額
営業活動によるキャッシュフロー	742	2,198	2,116	1,374
投資活動によるキャッシュフロー	△2,427	△1,048	△1,311	1,116
フリーキャッシュフロー	△1,685	1,150	804	2,489
財務活動によるキャッシュフロー	1,713	△378	△752	△2,465
キャッシュの増減	588	1,354	△298	△886
キャッシュの残高	10,619	11,973	11,675	1,056

2. 2015年3月期 通期業績予想

- 収益性の向上を目標の第一に掲げ、最適なグローバル体制、健全な経営体質を構築すると共に、当社のオンリーワン技術を駆使した競争力ある製品をタイミングよく市場投入し、目標達成を目指します。

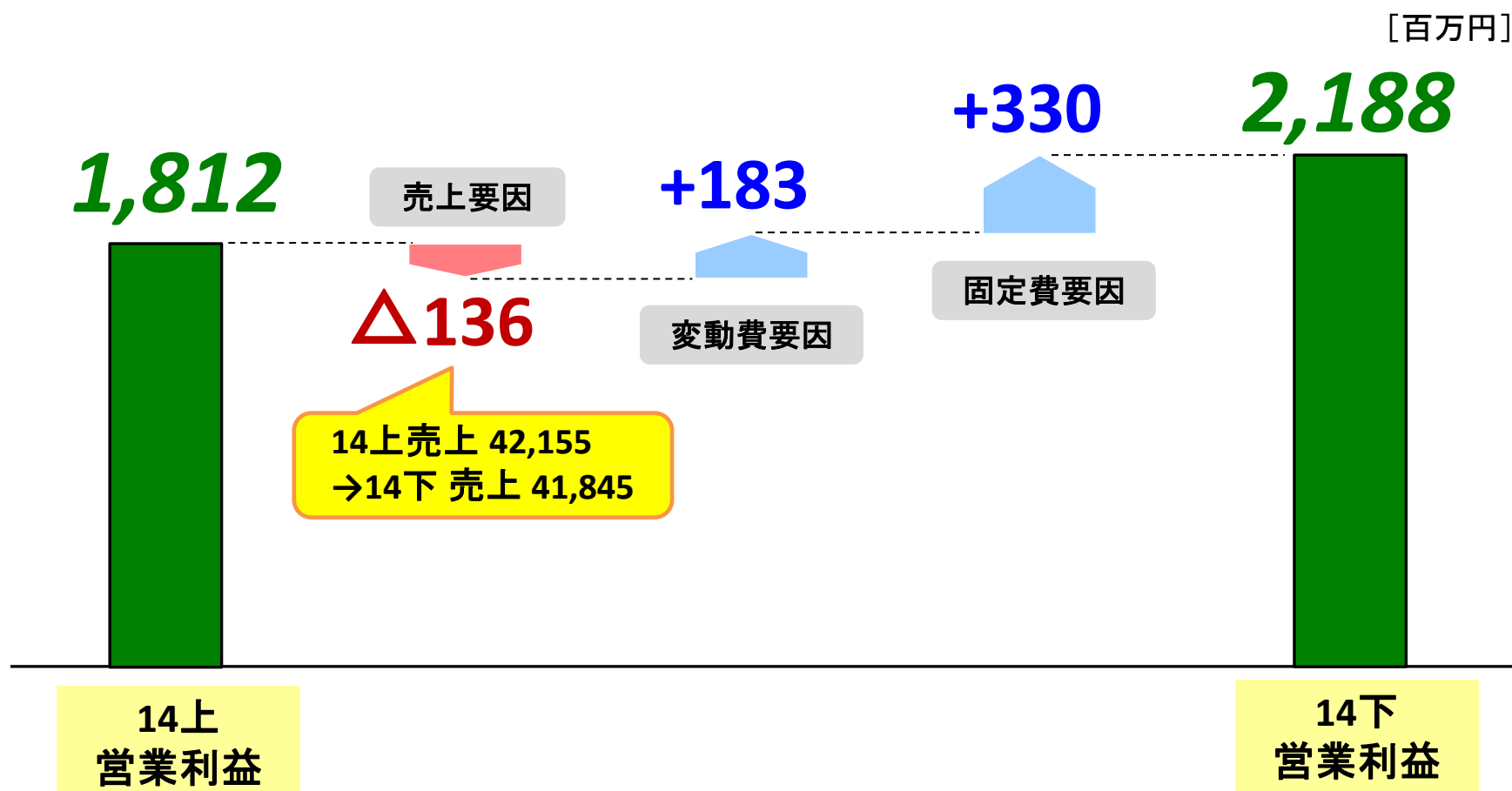
[百万円]

	FY2013 通期 実績	FY2014 通期 予想	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	81,176	84,000	2,824	103%
営業利益	2,409	4,000	1,591	166%
経常利益	2,891	3,700	809	128%
当期純利益	1,797	2,700	903	150%

14下 計画為替レート

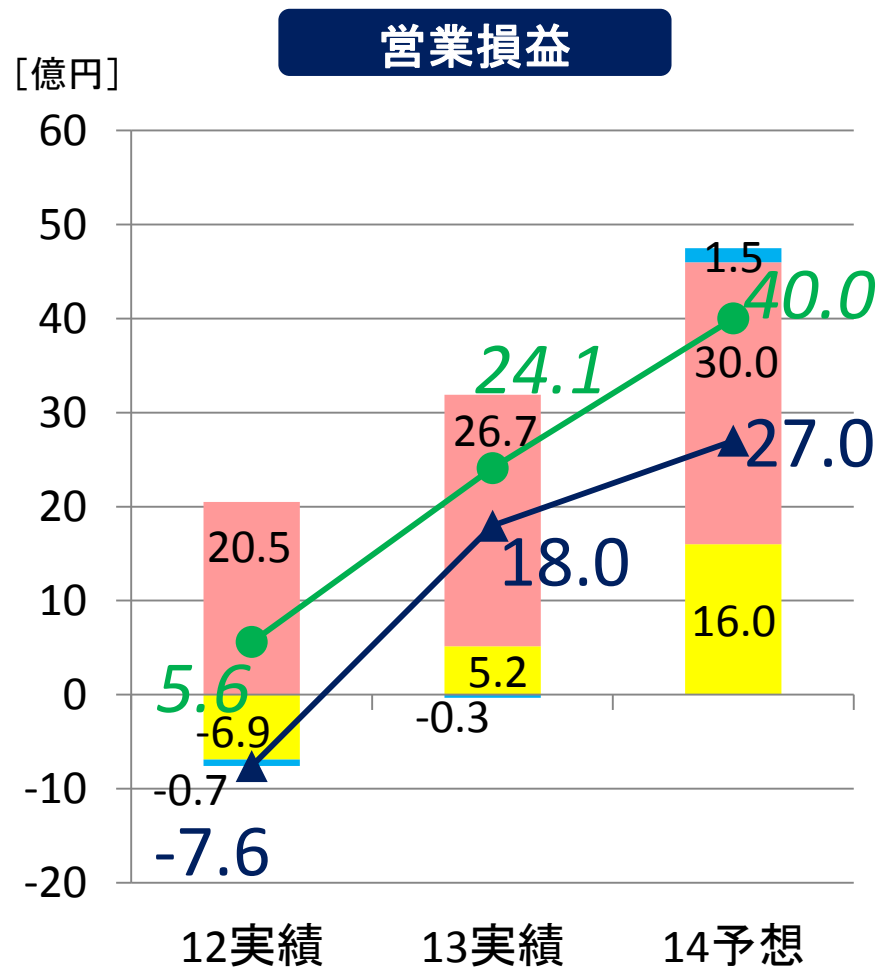
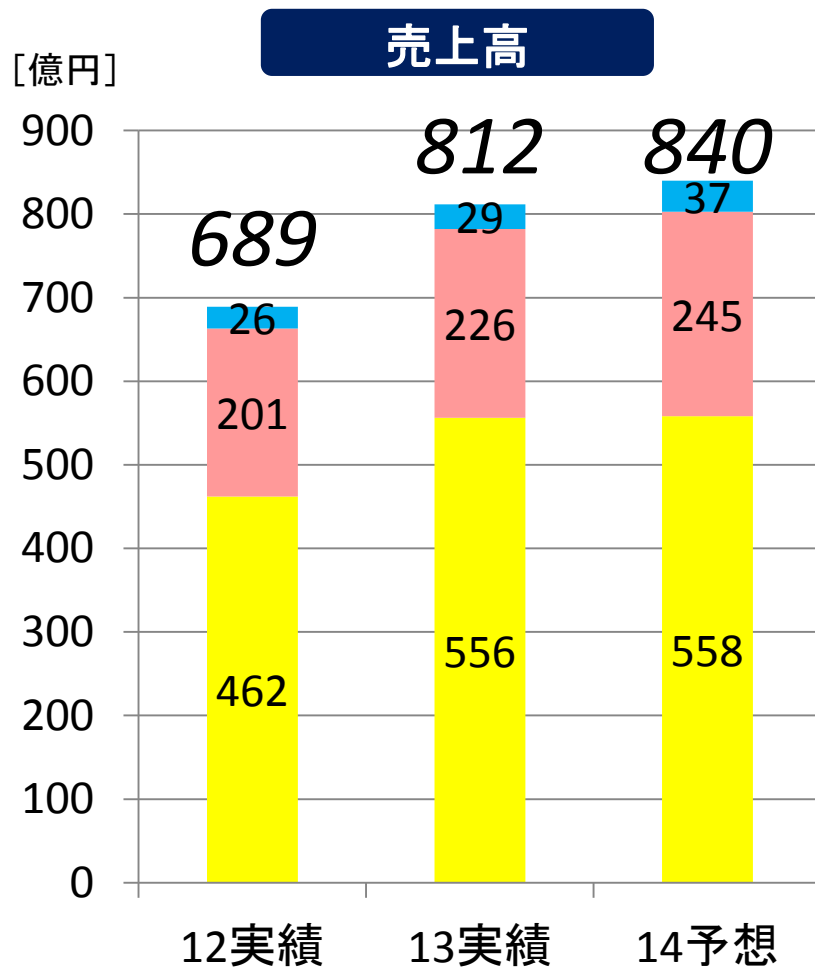
\$1= 102円

- 高付加価値なオンリーワン・ナンバーワン製品の拡大により、変動費率を抑え収益性を拡大
- 最適なグローバル体制の構築により、固定費の最適化を図る



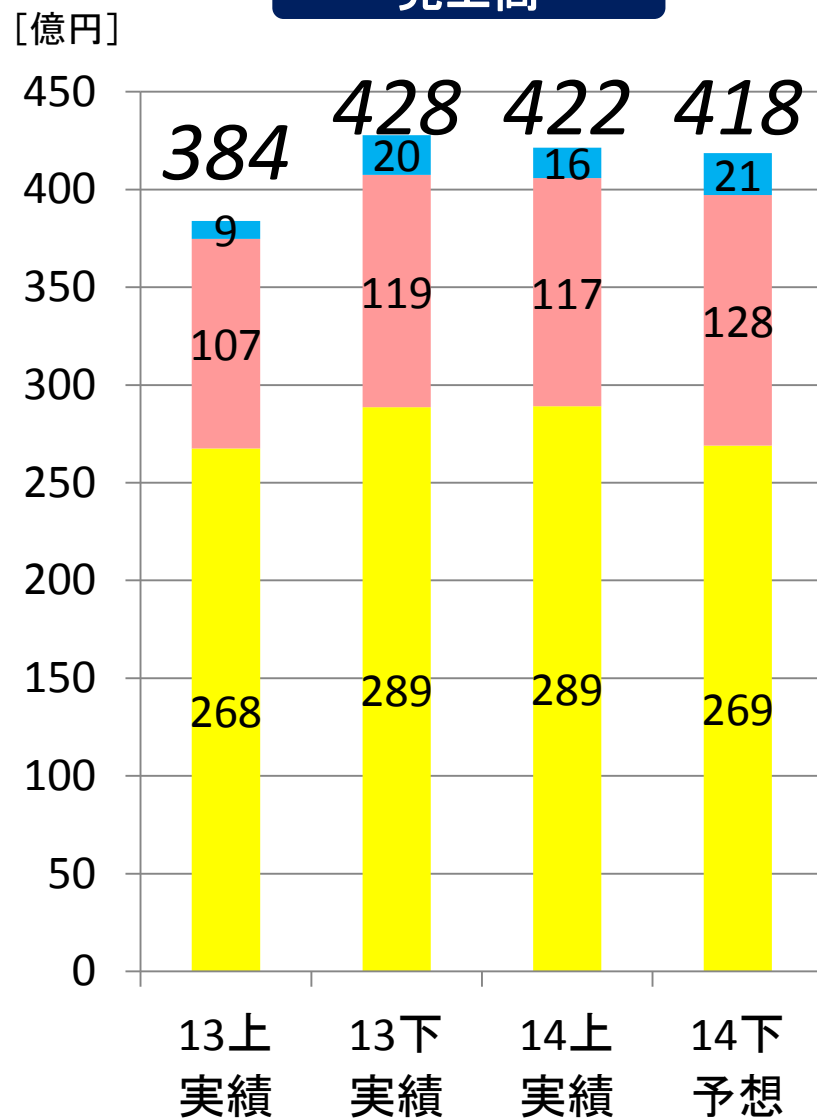
事業部門別の売上高・損益見通し(年次)

- 電子部品：引き続き収益拡大を第一に、安定収益体質を定着させる
- 電子化学実装： 戦略市場向けの売上・利益を着実に確保
- 情報機器： ターゲット市場のニーズを捉えて、通期黒字を目指す

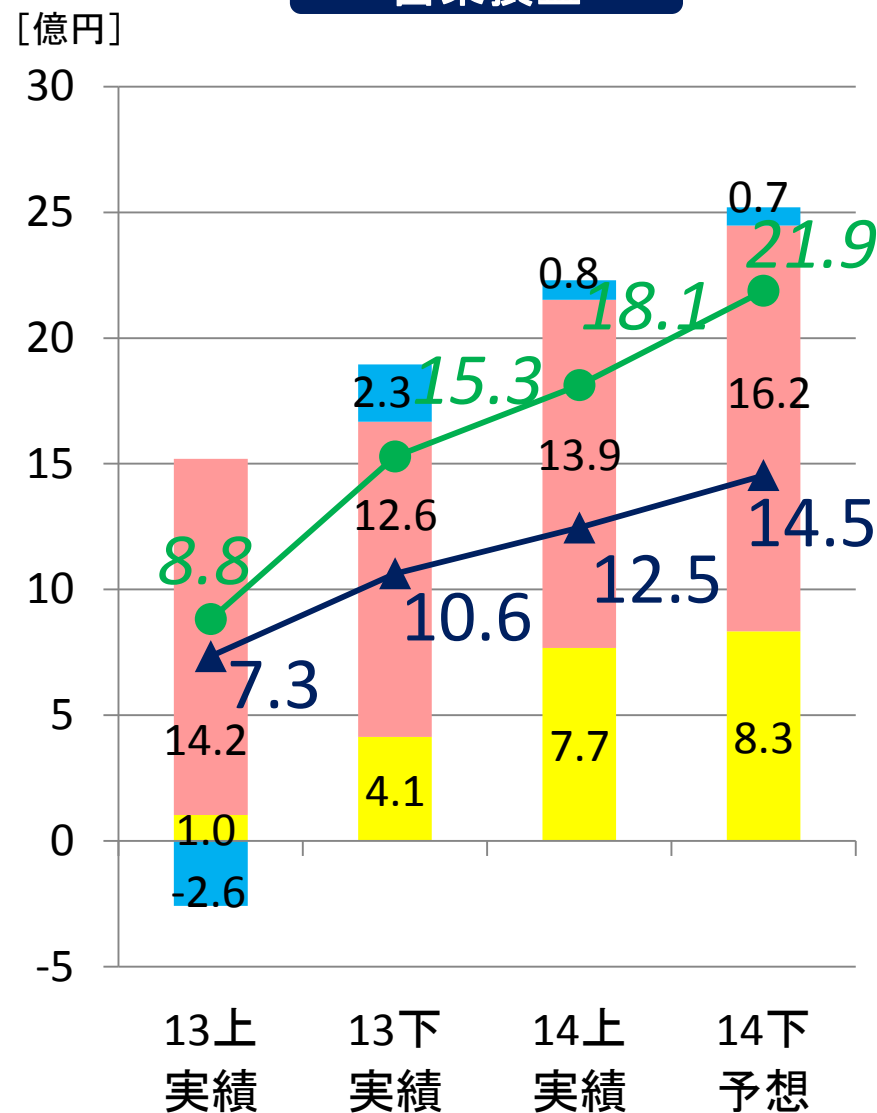


事業部門別の売上高・損益見通し(半期)

売上高

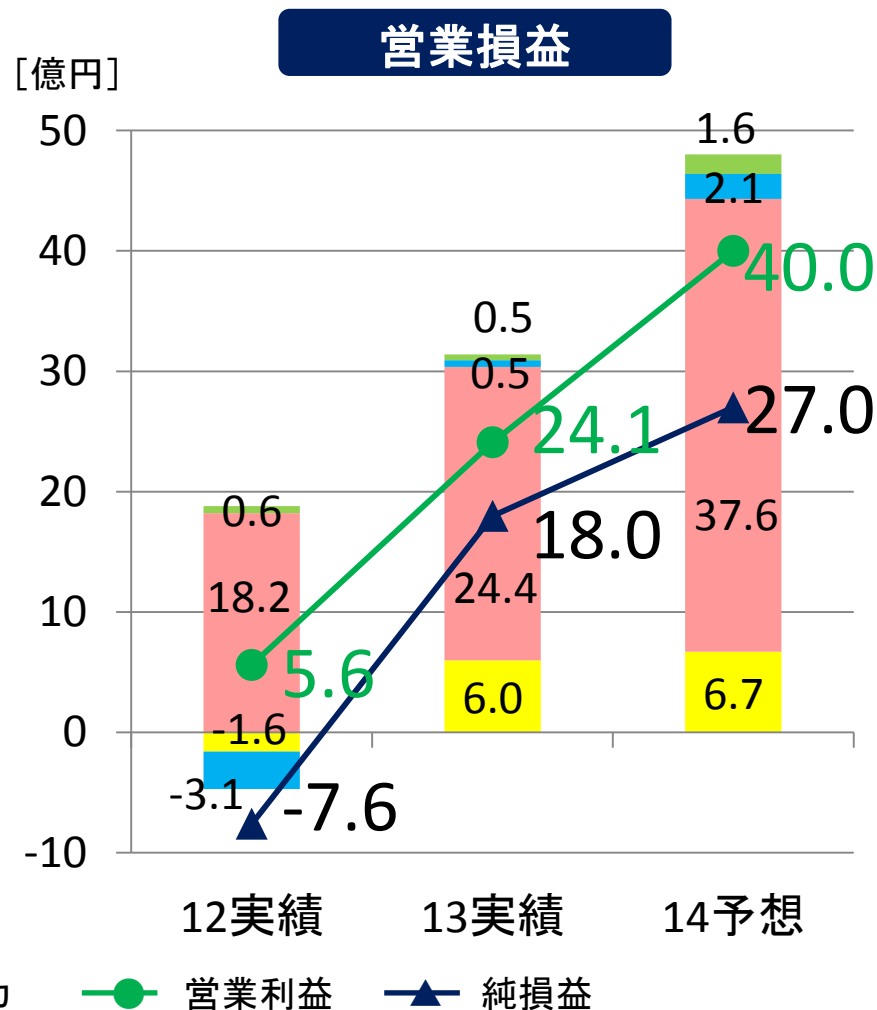
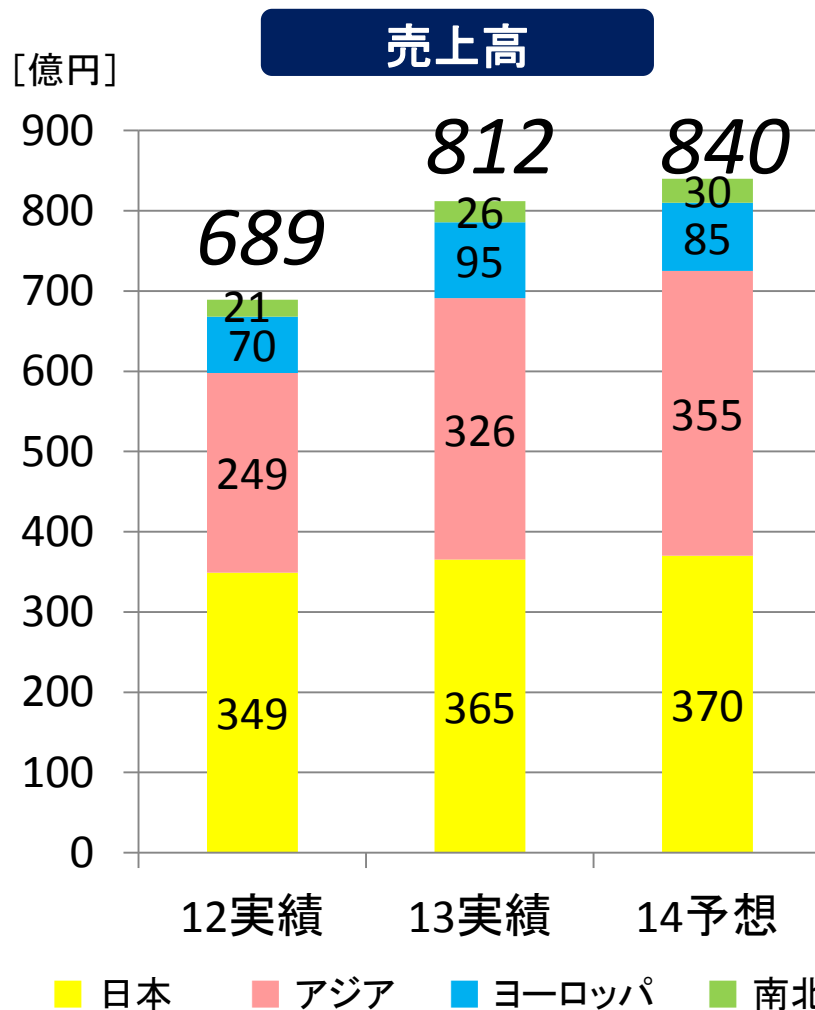


営業損益



地域別の売上高・損益見通し

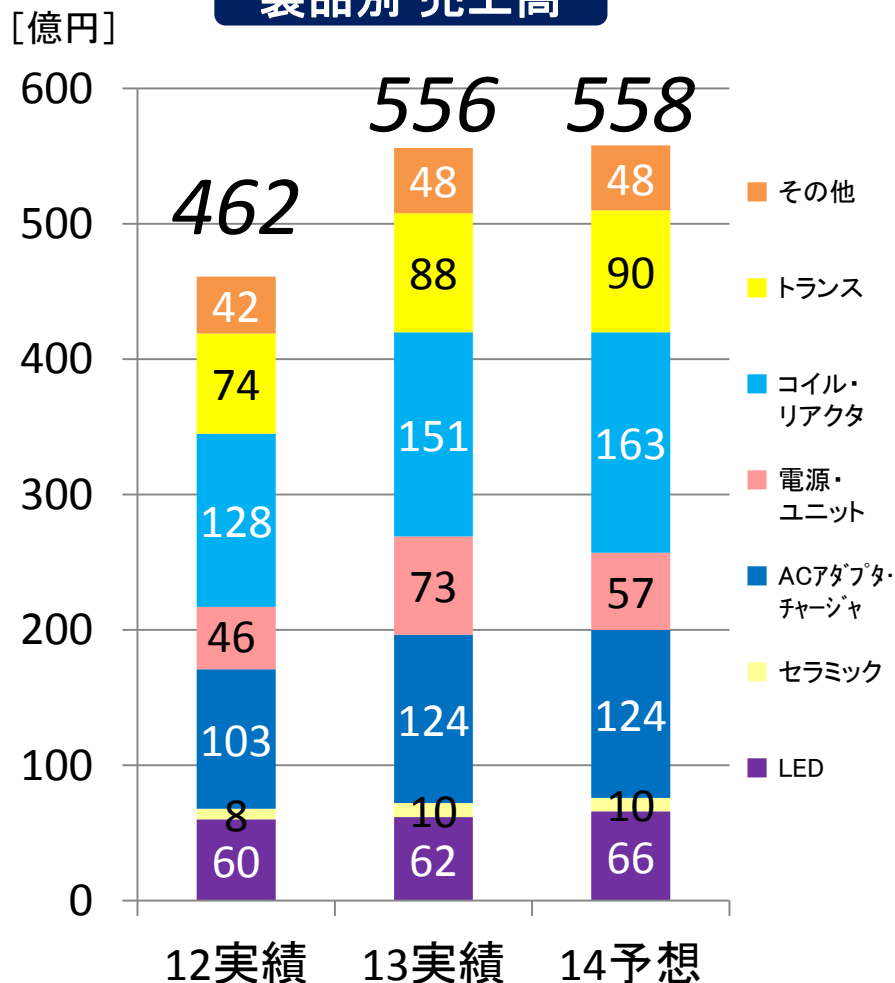
- 日本：付加価値を生む仕事に特化し、収益を確保
- アジア：生産・販売の両面で、引き続きグループの業績を牽引
- 欧米：非日系顧客への販売を拡大し、利益体質へ



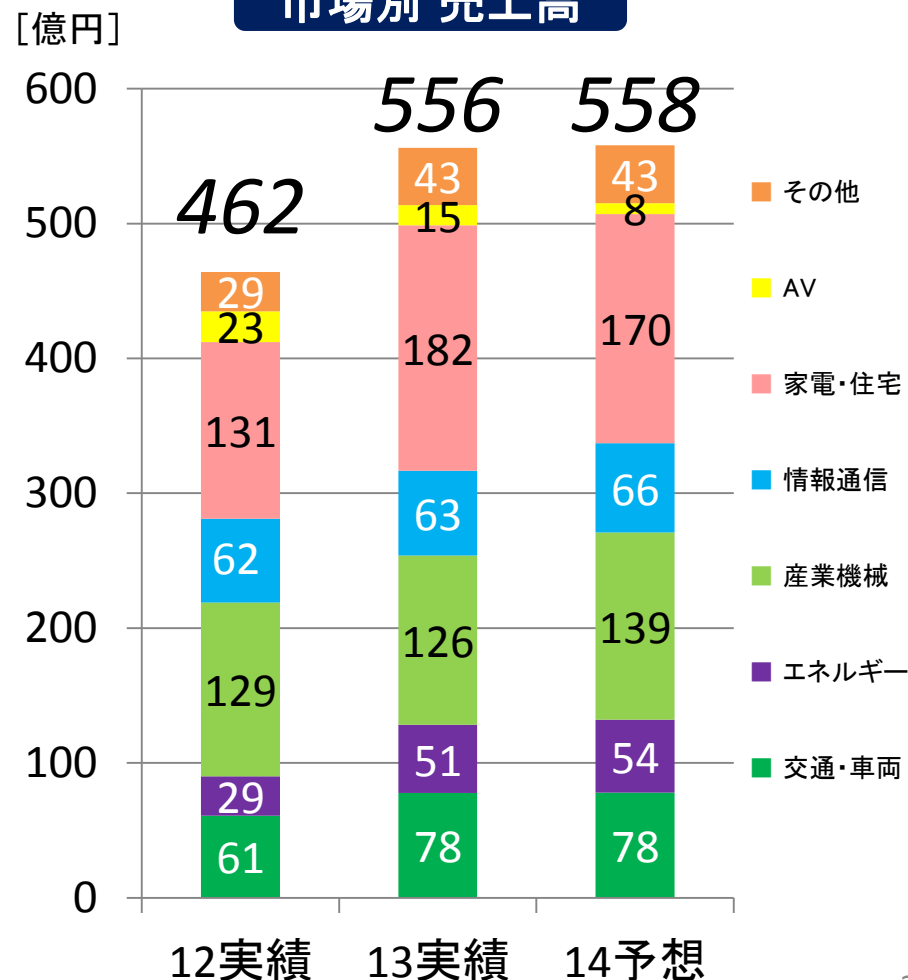
電子部品関連事業の見通し

- 上期好調だったエアコン関連は、下期に向けた季節変動や、一部EMS客先の材料が無償支給となるため、売上高はやや縮小（市場別＝家電・住宅、製品別＝電源・ユニット）。
- 設備投資需要の回復に伴い、産業機械関連が伸長

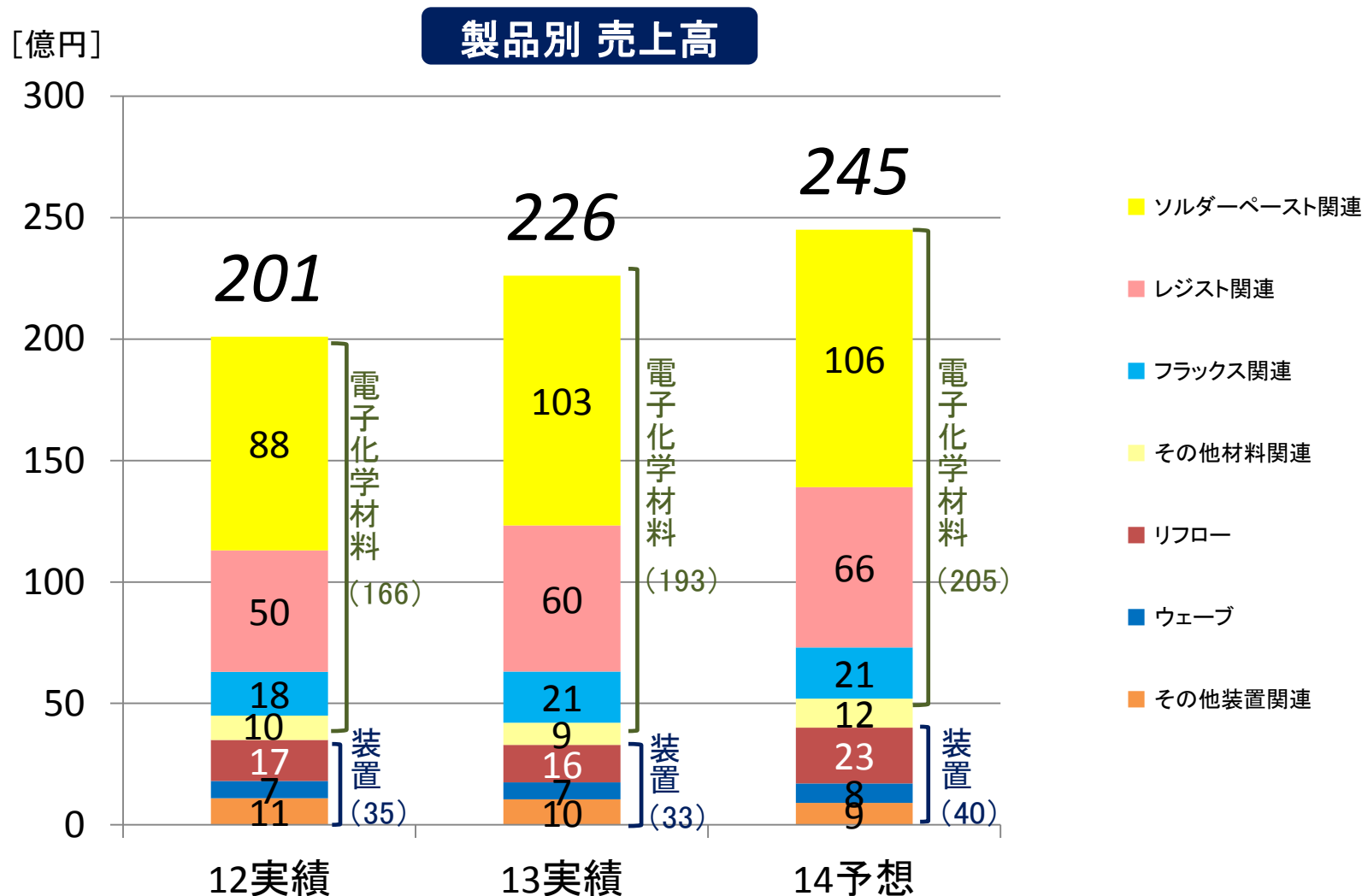
製品別 売上高



市場別 売上高



- 電子化学事業は、車載市場、スマートフォン・タブレットPC市場、エネルギー市場（太陽光）の3分野をターゲットに、新製品開発、新規顧客開拓を推進
- 実装装置事業は、回復基調にある市場のニーズを取り込み売上拡大



私たちは、創業の原点に立ち返り、2015年度を最終年度とする第10次中期経営計画“Biltrite Tamura”を推進中です。

■ 健全な経営体質を作る

- ✓ 売上重視から利益重視への意識改革
- ✓ 適正な「つなぎ利益」の確保

■ 最適なグローバル体制を作る

- ✓ グローバル労務費・経費の最適配分
- ✓ ナショナルスタッフの活躍推進

■ 立派な製品を作る

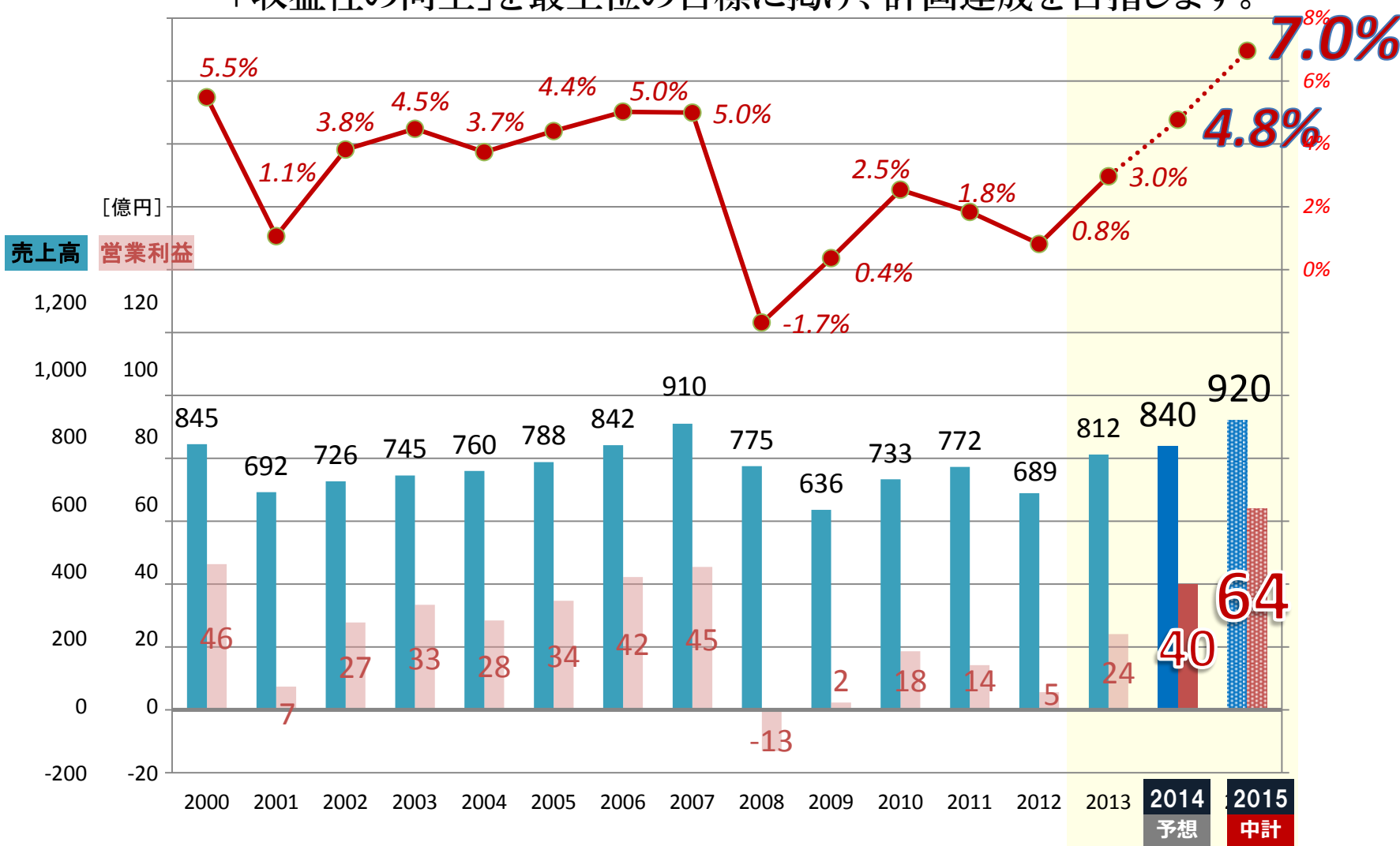
- ✓ ナンバーワン商品・オンリーワン商品の強化
- ✓ 新規・戦略事業の投資回収

中期経営計画の進捗

2015年度計数目標

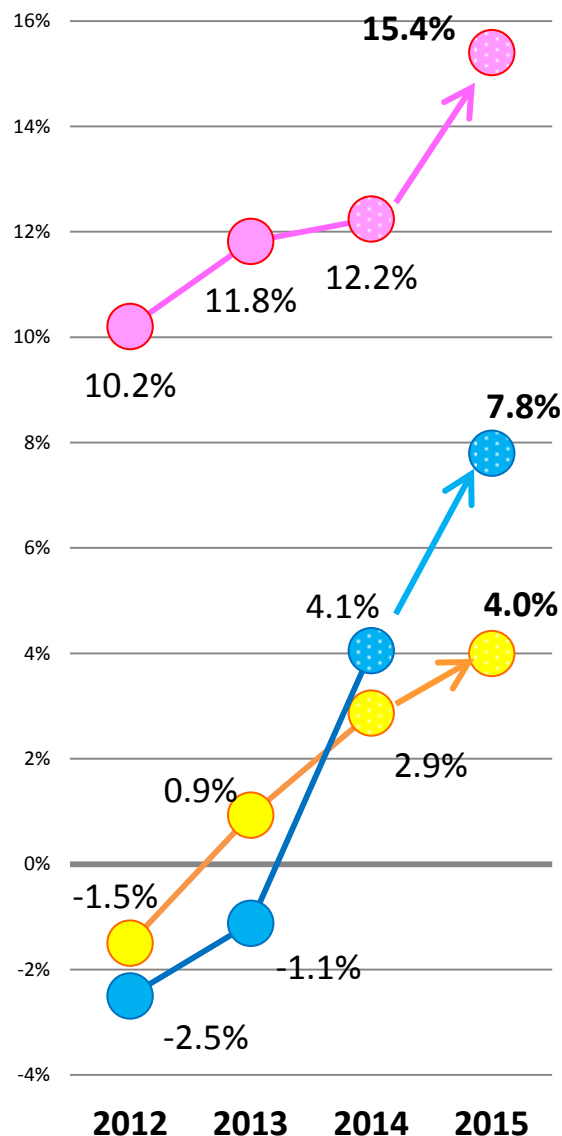
営業利益率 **7%以上** 営業利益 **64** 億円 売上高 **920** 億円

「収益性の向上」を最上位の目標に掲げ、計画達成を目指します。

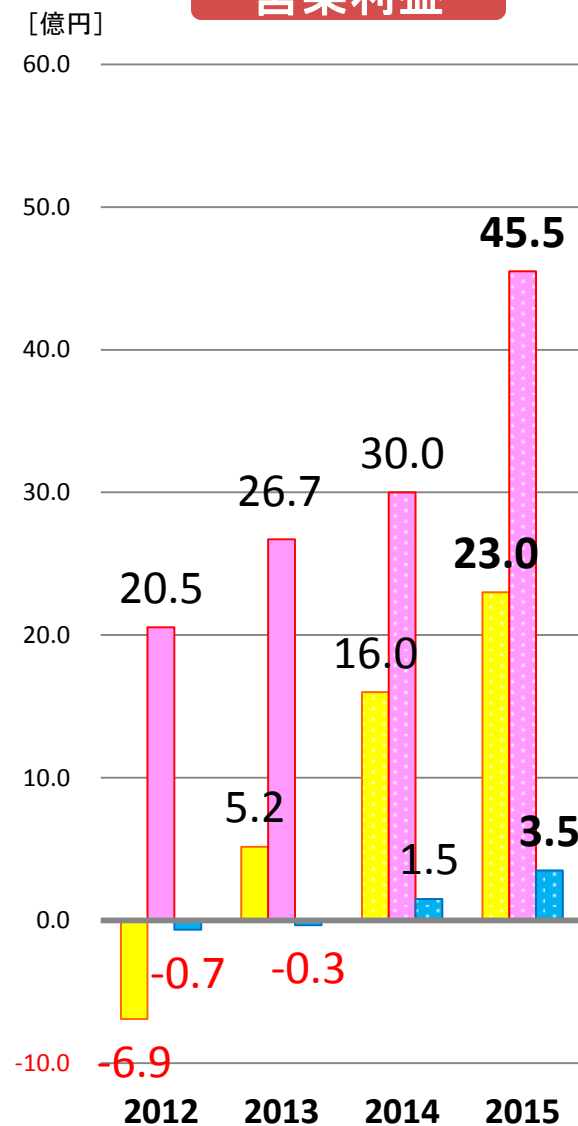


中期経営計画の進捗【事業別】

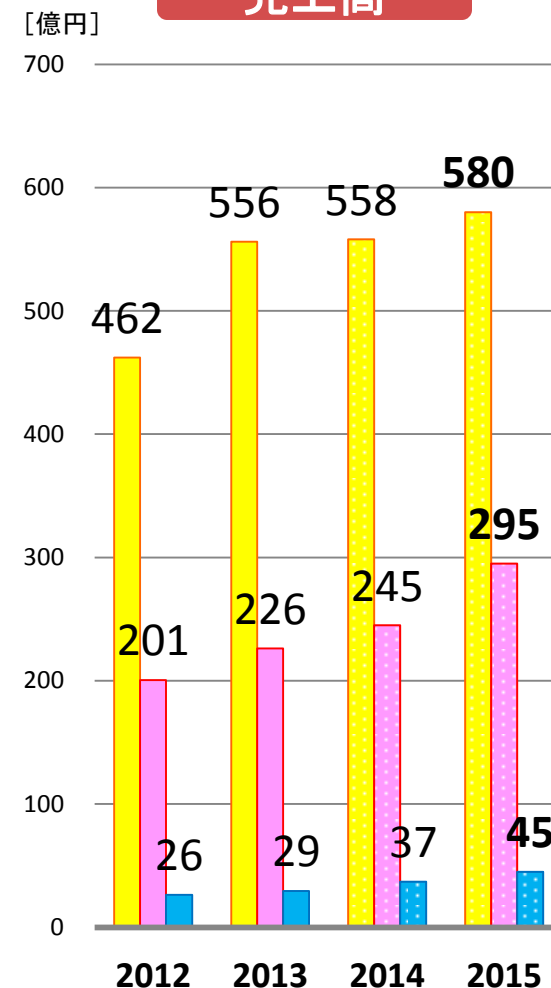
営業利益率



営業利益



売上高



黄色 : 電子部品関連事業

ピンク : 電子化学実装関連事業

青 : 情報機器関連事業

■ ミャンマーにおける現地法人・合併会社設立

タムラ製作所は、2014年10月、ミャンマー現地法人Earth Industries Myanmar社（以下：EIM社）と合併で新会社「Earth Tamura Electronic (Myanmar)」を設立いたしました。

- 合併パートナーとなるEIM社は、1996年からタムラグループの協力工場として、パワートランス・スイッチングトランス、各種コイル及び温度ヒューズ等を生産。
- EIM社は長年に渡る協力関係を通じて当社製品の生産ノウハウを熟知。更に、ミャンマーにおける有数の現地資本企業として同国内の事情に精通しています。
- 当社は合併会社設立により、人件費や運営面において魅力的なミャンマーにおける生産体制を一段と強固に。
- 現在の当社グループの大規模生産拠点は中国に集中しており、人件費高騰をはじめとするチャイナリスクを回避すべく、チャイナ・プラス・ワンの取り組みの一環として、合併会社を活用。
- ミャンマーに魅力を感じながら、自社で拠点を設けるには二の足を踏んでいるお客様向けに、EMS（製造受託）ビジネスもスタートいたします。

Earth Tamura Electronic (Myanmar)の概要

名称： Earth Tamura Electronic (Myanmar) Co., Ltd.

所在地： No.475 / Ka, Yauk Kaw Street, Block No.23, Industrial Zone (1),
South Dagon Township, Yangon, Myanmar

資本金： US\$1.716M

出資比率： タムラ製作所60%、Earth Industries Myanmar社40%

代表者： 前田 弘之

設立： 2014年10月

事業内容： トランス、温度ヒューズなど電子部品の生産



■ 大型トランス・リアクタ ～社会インフラ用に世界展開

- タムラは2010年より一辺が1m以上、重さ1t以上という、大型トランス・リアクタの製造販売に参入。太陽光・風力などの発電設備や、鉄道、送電設備などに用いられています。
- 欧州や中国などの送電分野では、「高電圧直流給電システム(HVDC)」の需要が高まっています。タムラはこの市場に向けて、パイプ状の導線内部に冷却水を流す大型トランス・リアクタを開発し、供給を開始しました。
- 電力システム用では製品寿命が30年以上に及び、厳しい信頼性試験に合格する必要があります。
- メーカーの信用力や事業規模も重要。重たく、輸送にも困難が伴うため、世界各地に拠点を持つメーカーが有利。これに対し、タムラは従来の民生用電子部品の生産拠点を活用し、世界8拠点で大型トランス・リアクタの生産が可能です。
- タムラは当社の優位性を生かし、世界をターゲットに、社会インフラ分野にも視野を広げて活躍してまいります。



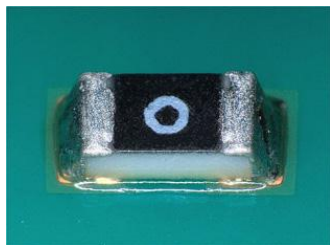
タムラ製作所の大型リアクタ
写真はシーメンス社提供

■ タムラの電子化学材料ラインナップ ～スマートフォンやタブレットPC、そしてウェアラブルへ

金属接合による導通確保と
樹脂による補強を同時に実現

導電性接合材料

SAM SERIES



レーザーなどの急加熱での
はんだ付けに

ポイントはんだ付け材料

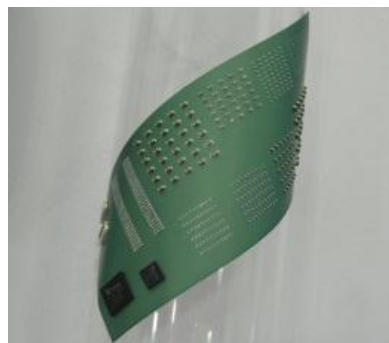
LSM SERIES



粉末微細化と酸化物除去フラックス
技術による微細印刷向け

鉛フリーソルダーペースト

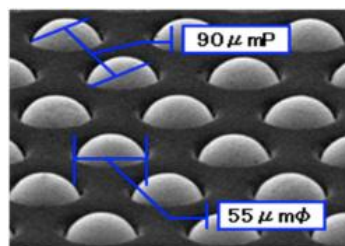
TLF&GP SERIES



狭ピッチFC接合対応 FC-PKG用

**マイクロバンプ形成
ソルダーペースト**

GD SERIES



機能性と安全性を保持しながら、様々な色調に対応

フレキシブル基板向け液状ソルダーレジスト

PAF SERIES



リジッド基板からPET・ポリイミド
基材まで幅広く対応

黒色吸収材

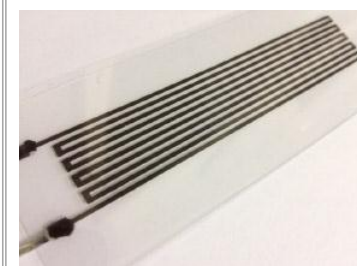
APB SERIES



各種材質を低温で接着

**低温硬化
導電性接着材料**

LICA



インクジェット・スクリーン印刷
のどちらにも対応
フィルム材より薄膜化が可能

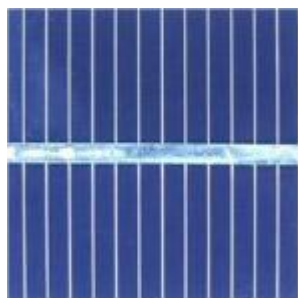
透明絶縁材料

JIM TOM

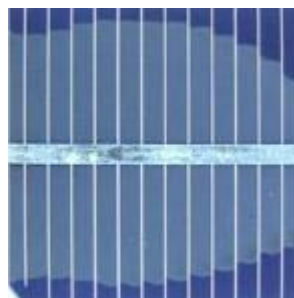


■ 太陽電池パネル向け 残さが少なく受光面に影響しない 超低残さフラックス

- 独自技術により従来品と比較して60%残さが少ないフラックスを開発
- 酸化物を除去し、酸化を防ぐ材料として使われているロジンなどの固形物を減らし、はんだ付け後、残さとならない材料を新たに自社開発し配合することにより、従来品と同等の性能を実現
- バスバーを使用した太陽電池パネルの接合向けに需要が見込めると考え、中国を中心に広くサンプル出荷・販売をスタート



超低残さ開発品
(はんだ付け後外観写真)



当社従来品
(はんだ付け後外観写真)

■ 低温硬化・薄膜で高絶縁性を保持した 黒色材料APB-2000TRを開発

- スマートフォンやウェアラブル製品など、狭い面積に高密度実装する必要がある製品が増えている中、部品間の絶縁をとるための熱硬化タイプ絶縁塗料を開発しました。
- 部品実装後、ディスペンサーやスプレーで塗布することで部品間の絶縁を保持することが可能。
- 150℃5分で硬化後は、260℃のリフロー炉での実装工程でも剥離しません。そのため、部品を包むことで、部品間を極限までつめても絶縁を維持することができます。
- 高い電圧にも耐えることができ、黒色の外観のため、隠蔽性を高めることも期待できます。
- タムラはフレキシブル基板向けのソルダーレジストのリーディングカンパニーとして、スマートフォンだけでなく、今後広がりを見せると考えられるウェアラブル機器へ最適な製品のラインナップを広げてまいります。



■ デジタル音声卓 海外で相次ぎ採用

- デジタル音声調整卓“NT880”は、2011年秋に発売をスタートした音質、機能、デザイン、操作性、そしてクリエイターの創作意欲をそそる感覚までにもこだわった当社のフラグシップモデルです。
- デジタル音声卓“NT660”は、フラグシップモデルである“NT880”の機能性と安全性を引き継ぎつつ、新たな操作方式の採用により小型化したモデルです。大型音声卓が設置できない中継車や中規模スタジオに最適なサイズの音声卓です。

2014年4月 台湾民間全民電視公司(民視テレビ)に“NT660”を初納入

2014年5月 台湾TVBS無線衛星電視台(TVBS)に“NT880”を初納入

2014年7月 韓国の公営教育専門放送局である韓国教育放送公社(EBS)から、“NT880”を受注

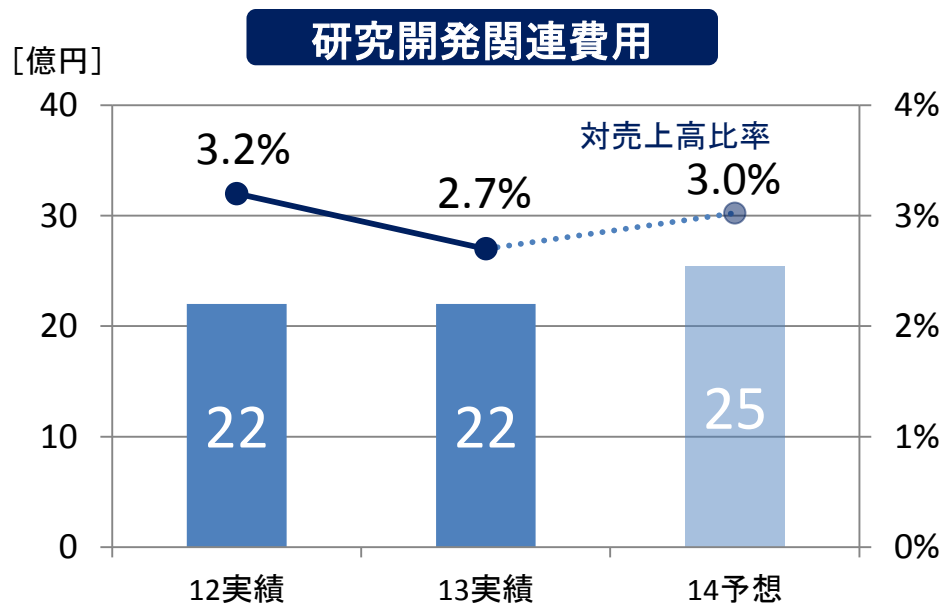
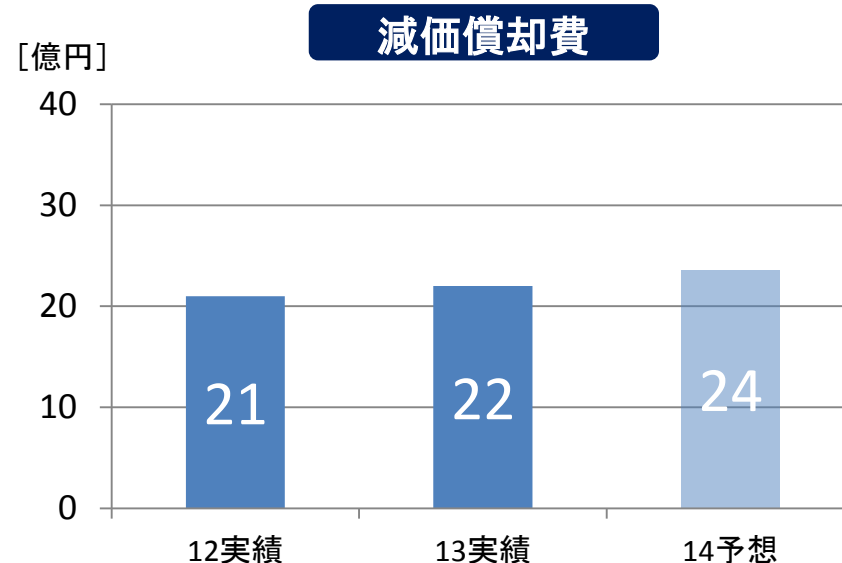
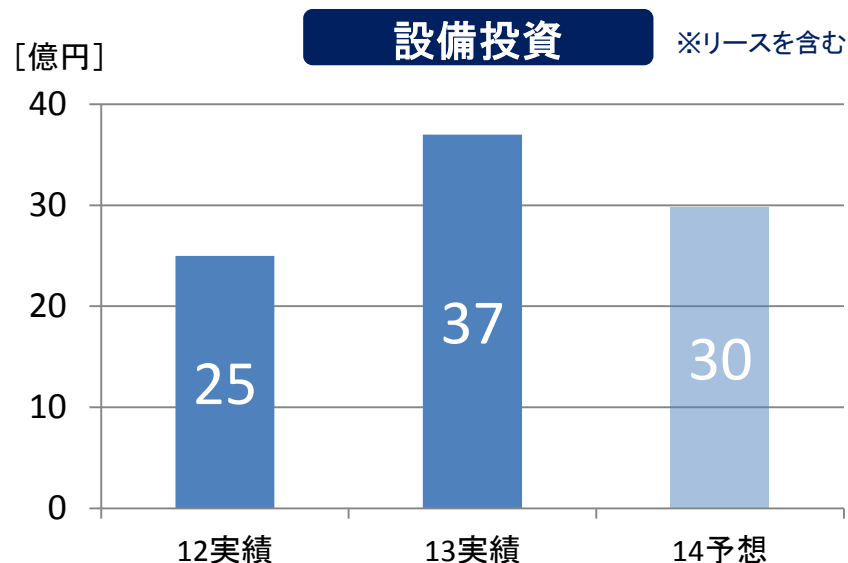
- 今後、こうした実績をもとに、テレビ局、ラジオ局の設備投資が期待できる中国、韓国、台湾、アセアン地区など、アジア圏内を中心に海外販売を強化してまいります。



NT660



NT880



主な設備投資

- 電子化学: 児玉新工場生産設備増強
- 電子部品: 車載関連生産設備増強

主な開発投資

- 電子化学材料 新素材関連
- 車載用電子部品関連
- 次世代デジタルワイヤレス関連
- セミコン開発(酸化ガリウム)関連

本資料中の業績予想、見通し及び事業計画については、
現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

